2019年12月某日

差枚	+約700枚	RANK	A

実戦機種

SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ、パチスロあの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。

実戦レポート

S級を目指す当企画の中でも、朝イチの台選びが特に重要なお店だなと感じている、本日の実戦ホール。いつも以上に念を込めて抽選ボタンを押すと、出てきた番号は…「87番」！
どーしようもない、どーにもならない数字である。オレの狙い台がいくら不人気だといっても、さすがにこの入場順じゃあ取れるわけも…あ、あ、空いてるっ？　バジリスク絆の撤去を惜しむかのように再導入された名機「SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ」が空いているだと⁉

この機種ねぇ～、大好きなんですよ。ボーナス＋ARTタイプがまず大好物なうえ、バジリスクタイムのセット継続が完全に「目に見える自力抽選」で構成されていて、レア役はたとえ弱チェリーだろうと天膳へ叩き込めば大仕事をしてくれる。通常時が少しもどかしい周期抽選だということを差し引いても、なお余りある秀逸なゲーム性を実現してくれていると思う。さらには、高設定（特に6）が分かりやすいのも特徴的だ。いい意味で「機械割が高すぎない」のもポイント。

そんなこんなで、つまり今日の全台系機種になる可能性が大！とオレは予想したのだ。もう半分勝ったような気分で打ち始めると、幸先よく突入したARTが予想外に伸びる、伸びる。強チェリーを引きまくって自力ストックを乱発し、あっという間に一撃1300枚である。上出来！
…がしかし、この間にも他の台は動いていたわけで、そしてオレの台もそこそこ小役確率などのサンプルは取れており、出た結論は「設定6じゃない」。運良くヒキで出玉は作れたけれど、バジⅢのシマはハズレだ。高設定を探す旅は、振り出しに戻ってしまったわけだ。

開店から2時間ほど経過し、そろそろ店内全体の傾向もハッキリを見えてくる頃だ。ここで高設定を逃したら、きっと夜まで移動先に苦しむことになる。どこだ？　どの機種だ？　どの台がまだ埋もれている？　店内を何周かした後、「まぁこの台なら…」と腰を落ち着けたのが、おなじみ「パチスロあの花」だった。この店だけでも、もう何度打ったか分からない。困った時のあの花である。なぜって、この台もみんなからあまり人気がないからね！　…なんでだろうな？
まぁ、オレは好きだし、こうして空いていてくれたのだから文句は言うまい。んで打ち始めると、今まで打ったどんなあの花よりも、初当りが軽い！　弱レア役からもバシバシ当たりまくる！
「おや、これは高設定かも…？」なんて過去何度か思ったのが馬鹿らしくなるほど、これぞ正真正銘の設定6だ。確定演出なんて出なくとも分かる。バジⅢのプラス分がまだ残っている状態でこの台に座れるだなんて、もう今日のS級はもらったようなもんじゃねぇか！　…8時間後、完全に6なのに、出玉は少～～し減っていました。また、悲しいA級を取ってしまったか…。